

科目名	生殖医療と生命倫理 (Reproductive medicine and bioethics)			科目コード	S105
単位数	1単位	選択区分	必修	時間数	15時間
区分	助産学基礎領域	履修時期	前期	関連DP	助①③⑥
担当教員	今村 朋子、草薙 康城、崎山 貴代*				
授業概要	生殖補助医療の発達は、私たち医療職に対して、医学的知識だけでなく、生命倫理的な考察がいかに重要なのかを問いかけている。また倫理はおかれる立場によって変わりうるものでもあるため、生命倫理に関連する様々なトピックスを通して、対象への理解、援助者である自己理解を深める機会とする。				
授業目標	1. なぜ、生命倫理が論じられるようになったのか、出生をめぐる生命倫理の特徴やそれに伴う助産師のジレンマを通して、自己の考えを深めていくことができる。 2. 今日の生殖医療の現状と課題（不妊治療や、出生前診断、生殖補助医療等）と、それを受ける対象に対する心理・社会的考察を通して、助産師の役割について自らの考えを述べるることができる。				

授業計画

回	項目	内容	担当者
1	助産師と生命倫理	なぜ、生命倫理が論じられるようになったのか 出生をめぐる生命倫理の特徴 出生と死をめぐる助産師のジレンマ 【ディスカッション課題提示】	今村朋子
2	不妊の診断と治療	不妊の配偶者間・非配偶者間の生殖医療 不妊治療の流れ 体外受精〔減数手術含む〕に伴う倫理的課題	草薙康城
3	出生前診断	出生前診断・着床前診断の実際 出生前診断に伴う倫理的課題 障害胎児の治療的問題	
4	遺伝学・遺伝性疾患	遺伝性疾患とは 診断方法と治療 遺伝性疾患に伴う倫理的課題	
5	生殖医療における相談支援	不妊治療・生殖補助医療に臨む人が意思決定するまでの 心理的・社会的状況と相談支援の実際 生殖補助医療を受けて妊娠した人の看護ケアニーズと支援	崎山貴代
6	生殖補助医療と倫理的課題	【グループワーク】 生殖補助医療に伴う倫理的課題に助産師として どう向き合うか	
7	ペリネイタルロス	死産・新生児死亡で子どもを亡くした家族の援助	今村朋子
8	障害を持つ新生児の家族の援助	【課題発表とディスカッション】 先天異常、障害をもつ新生児の家族の理解 障害児の受容過程における助産師の役割	
成績評価方法	(今村) 課題学習、レスポンスシート(50%)、授業に対する取り組み、積極性(20%) (崎山) レポート(30%)		
教科書	我部山キヨ子・武谷雄二「助産学講座1 助産学概論」(医学書院)		
参考図書等	(今村)・仁志田博司「出生と死をめぐる生命倫理-連続と不連続の思想」(医学書院) ・著:Marshall H. Klaus, John H. Kennell, Phyllis H. Klaus 訳:竹内徹 「親と子のきずなはどうつくられるか」(医学書院) (崎山)・小林亜津子「生殖医療はヒトを幸せにするのか 生命倫理から考える」(光文社) ・柘植あづみ「生殖技術 不妊治療と再生医療は社会に何をもたらすか」(みすず書房)		
授業時間外の学習について	最終回の発表に向けて、時間外のグループ・個人学習が必要である。 授業後の学習として、レポートにより理解を深める。		
関連科目	102 性と生殖の形態機能、103 周産期医学、111 周産期ハイリスクケア論		
備考			